

AutoCAD LT では、印刷もしくは PDF 化をする際に、あらかじめ、設定をしておく必要があります。
このマニュアルと共にダウンロードした印刷設定ファイルを使用することにより、設定の手間を省くことができます。
ここでは、その印刷方法を記載します。

印刷の設定

まずは印刷の設定をおこないます。これは初回のみで、これ以降、行う必要はありません。

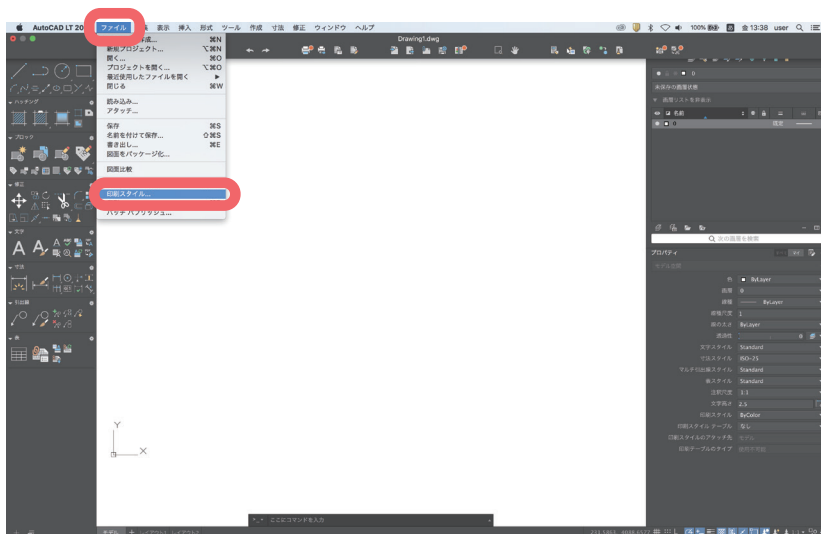
● ダウンロードしたファイルの確認

このマニュアルと共に、次の 2 つのファイルがダウンロードできているか確認しましょう。

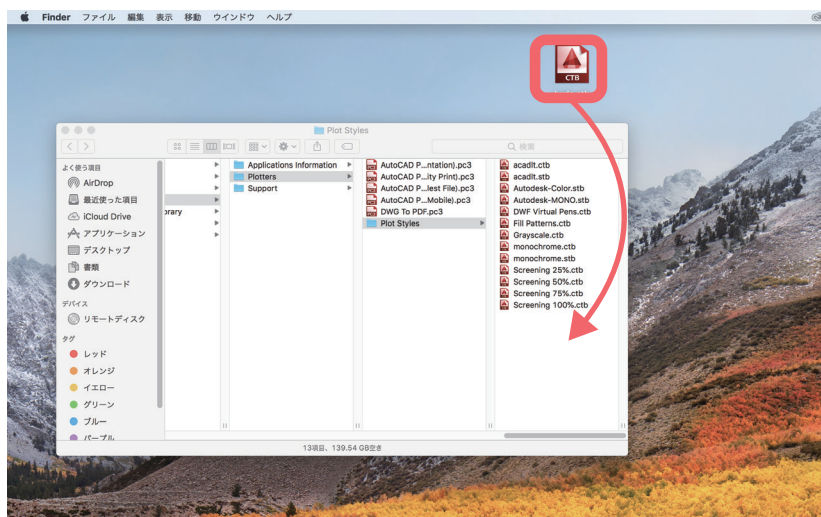
- **kudeformat.dwg** ----- 図面フォーマットです。今後も使用するファイルで、このファイルに図面を描いていきます。
- **kude.ctb** ----- 印刷の設定ファイルです。

● 「kude.ctb」ファイルを移動する。

印刷の設定として、ダウンロードした「kude.ctb」ファイルを以下の手順にて、「Plot Styles」というフォルダへ格納します。



AutoCad LT を立ち上げ、「ファイル」→「印刷スタイル管理」をクリックする。



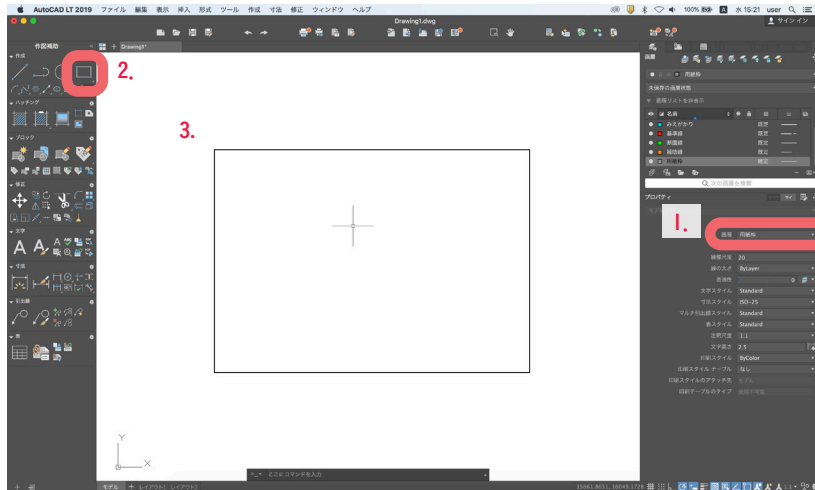
「Plot Styles」フォルダが開くので、このフォルダに kude.ctb ファイルを移動（格納）します。

ファイルを移動（格納）したらフォルダを閉じて構いません。

印刷（およびPDF化）のしかた

● 用紙枠を描きます。

kudeformat.dwg を開くと、「A3 サイズ横」(420×297mm) の用紙に縮尺「1/50」の図面を描くための用紙枠が既に描かれています。1/50 以外の図面を描く場合は描かれている用紙枠を削除し、以下を参考に四角形を描いてください。



1. 画層を「用紙枠」にする



2. 四角形ツールを選び



3. 下表の大きさの四角形を描く

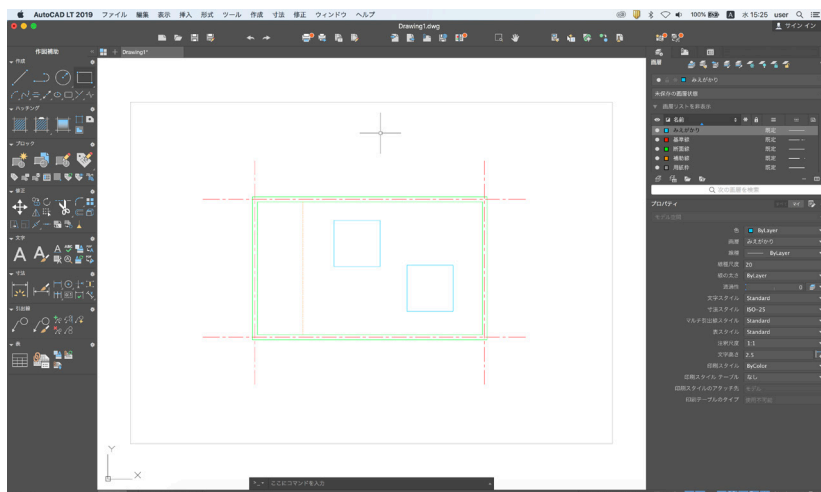
縮尺	四角形サイズ [mm] (用紙枠)
1/10	4,200 × 2,970
1/20	8,400 × 5,940
1/30	12,600 × 8,910
1/50	21,000 × 14,850
1/100	42,000 × 29,700
1/200	84,000 × 59,400

● 図面を描きます

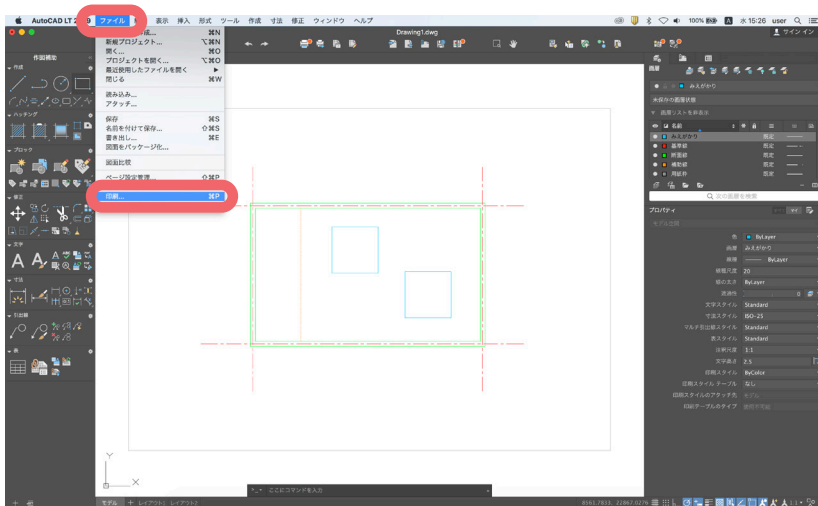
適切な画層と線種にて、作図しましょう。

※作図は原寸で描きます (1/50 の図面でも 1/1 で描く)。

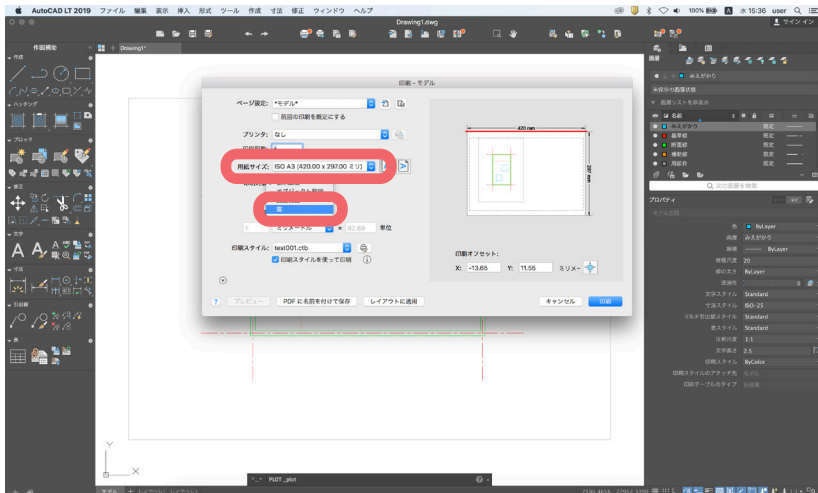
※図は枠外で描いても構いません。印刷時に必要な情報を用紙枠内にレイアウトします。



● 印刷（および PDF 化）をする



メニューバーにあるファイルから「印刷」をクリック

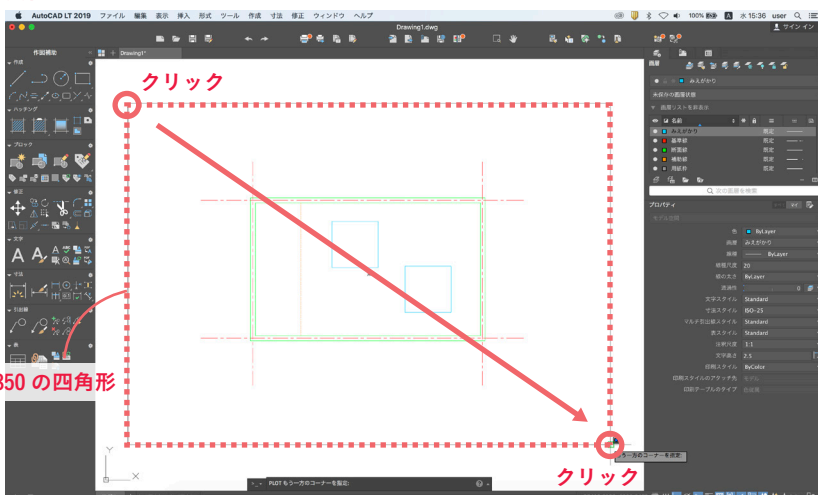


「用紙サイズ」を「A3 (横)」に設定します。

印刷対象をクリックし、「窓」を選択します。「窓」になっている場合には、右にあるアイコンをクリックします。

→モデル空間画面 (※1) に切り替わる

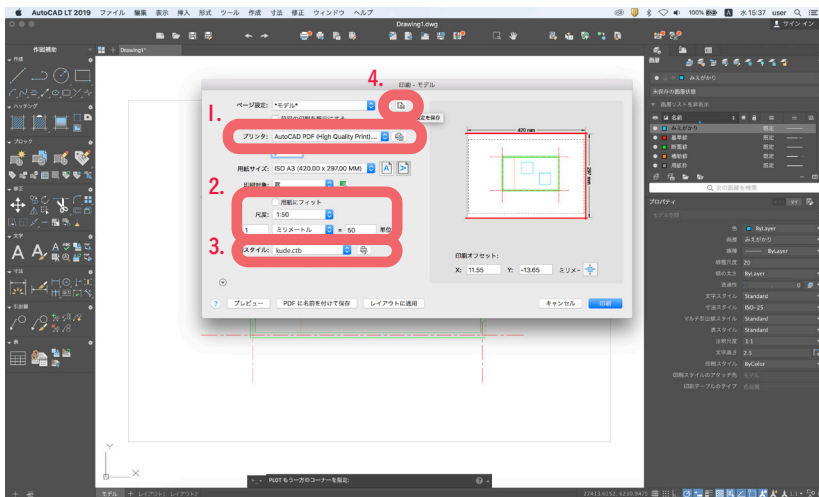
※1



21000x14850 の四角形

モデル空間に描かれている枠を選択します。

→選択すると印刷設定画面に戻る

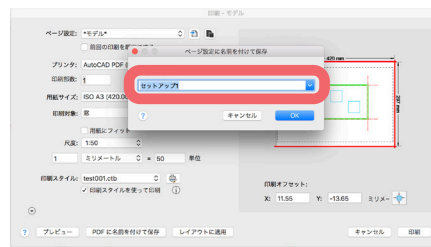


その他の項目を設定します。

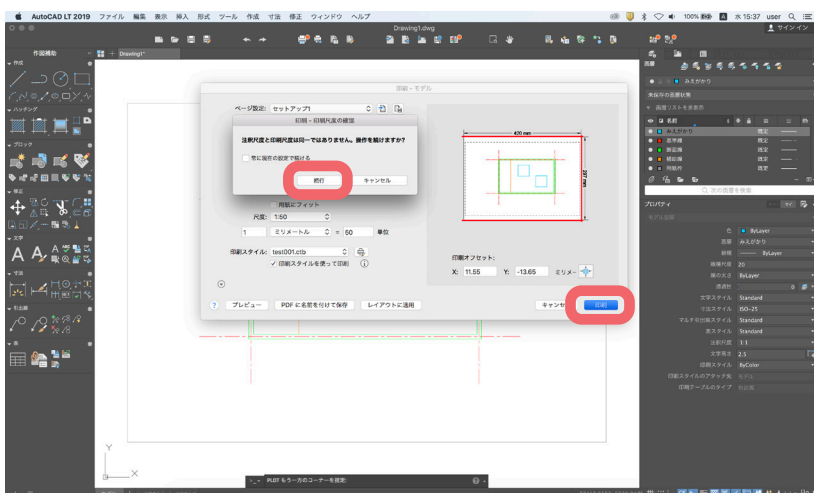
1. プリンタを「AutoCAD PDF」に設定

2. 「用紙フィット」のチェックをはずして、
尺度を「1/50」に設定

3. 印刷スタイル：kude.ctb ファイルを選
択



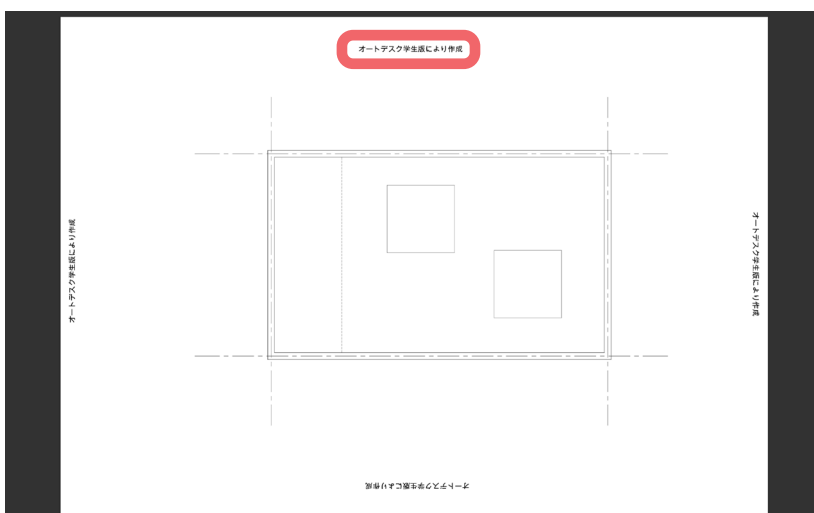
4. 設定が終われば「ページ設定を保存」
をクリックして、任意の名前で設定を保
存します。



「印刷」をクリックします。

「印刷尺度の確認」画面が表示されますが、
「続行」をクリックします。

↓
PDF データの保存画面が表示されるので、
ファイル名を入力し、保存先を確認して
保存します。



※印刷すると「透かし」と言われる文字が自
動的に印刷されます。

(2019 年度版から再導入)

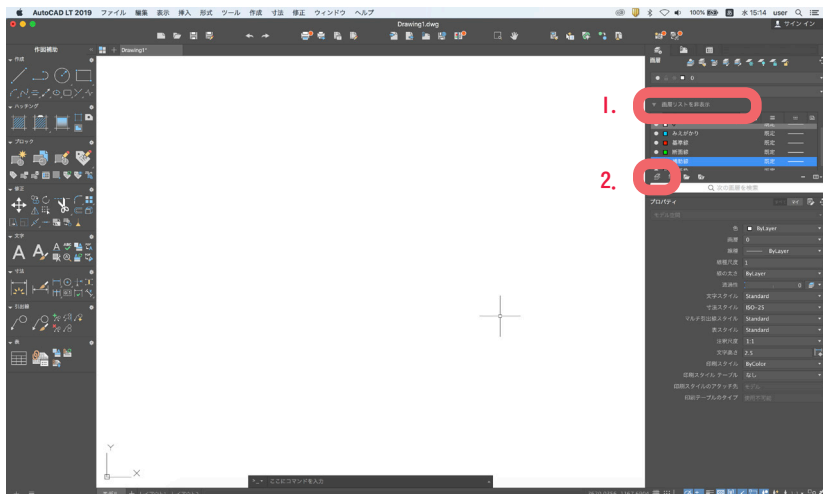
印刷設定では消去できませんので、ここでは
無視して下さい。

自分で、新規に画層や線種を追加する場合

kudeformat.dwf データをベースとして課題を進める上で、基本的には線種を追加する必要はありませんが、新たに画層や線種を追加・設定する場合には以下の方法でおこなうことができます。

● 新規に画層を作成する

画層を作成することで、図面を描く際に必要となる線種を区別することができます。

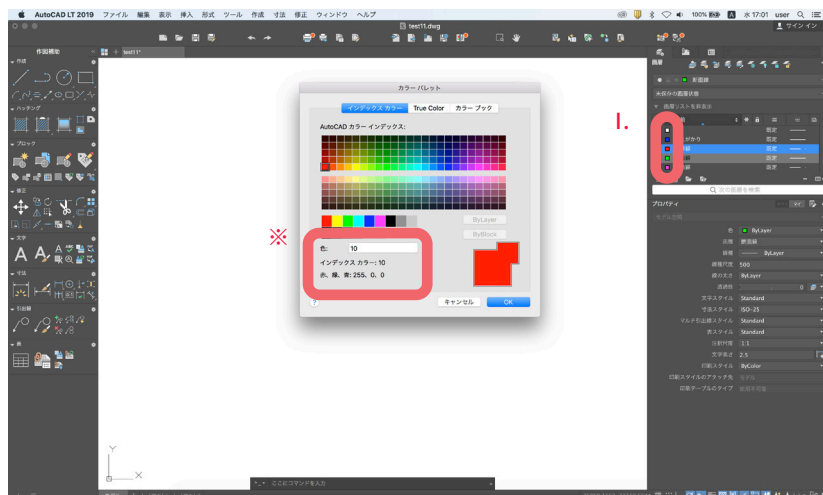


1. をクリック

2. をクリックすると、画層が作成されるので名前を入力する

※印刷設定で使用する「用紙枠」の画層を作成しておく

● 画層の色設定をする

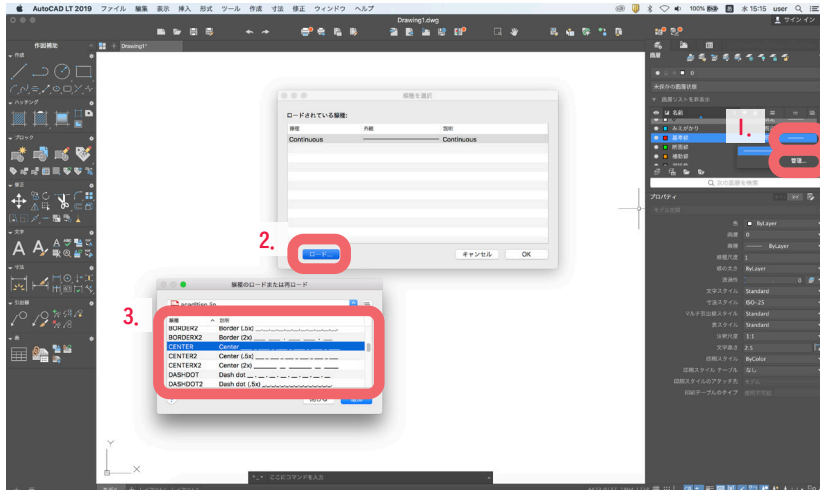


1. をクリックし、「色選択」をクリック (カラーパレットが表示される)

パレットから色を選択。各画層設定する。

※色を選択するとインデックスカラーの番号が表示されます。印刷設定で必要となるので、メモするなどして記録しておきます。

● 画層の線種を設定をする



1. 画層の線種をクリックして「管理」を選択



2. ロードをクリック



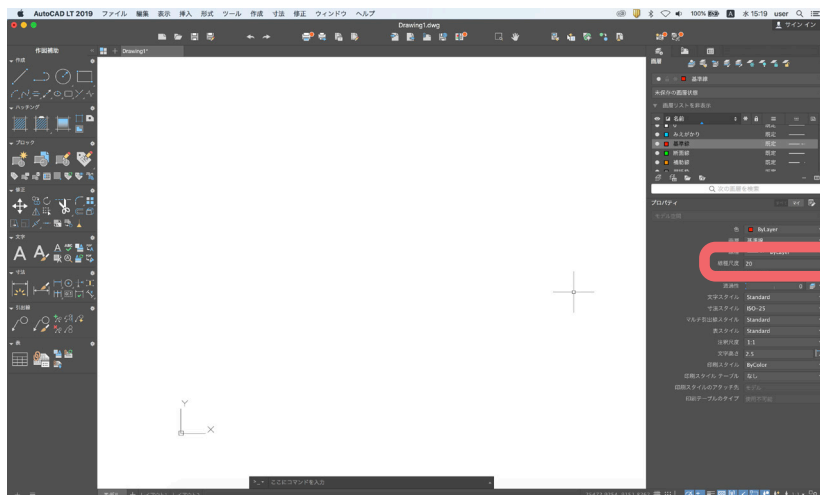
3. ロードしたい線種を選択し、「追加」をクリック



線種がロードされたので、再度画層の線種をクリックして登録する

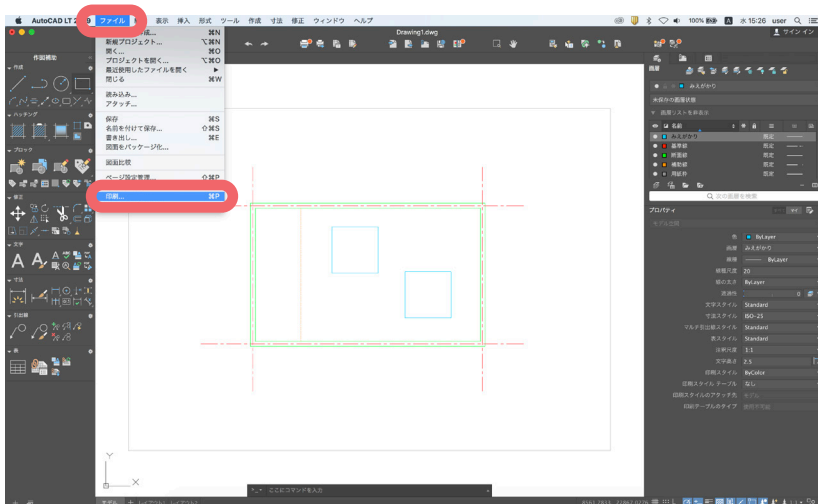
● 線種のグローバル尺度を設定する。

グローバル尺度とは、破線などの間隔を編集するための尺度です。kudeformat は、尺度「200」で設定していますが、ロードした線種に合わせて、変更が必要な場合に操作します。

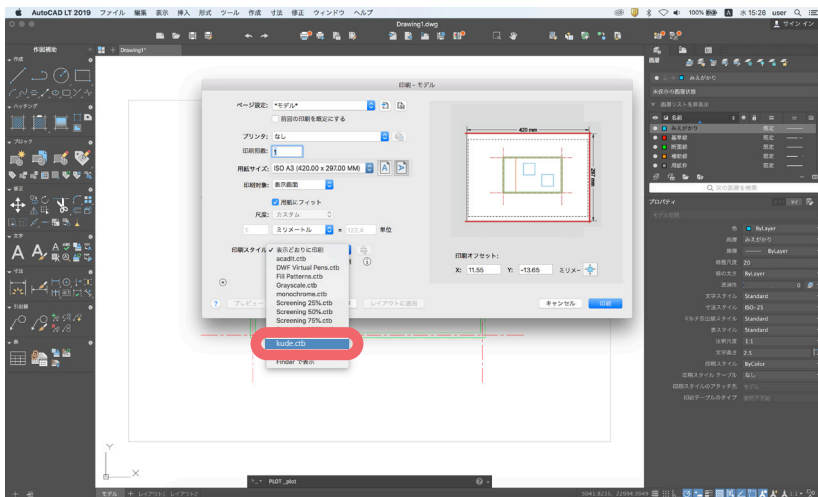


プロパティにある線種尺度に任意の数値を入力する。

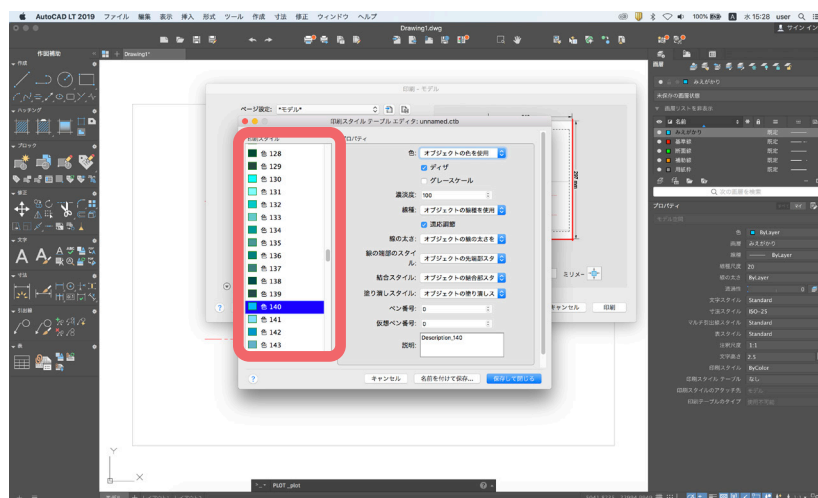
● 印刷スタイルを設定します。



メニューバーにあるファイルから「印刷」をクリック

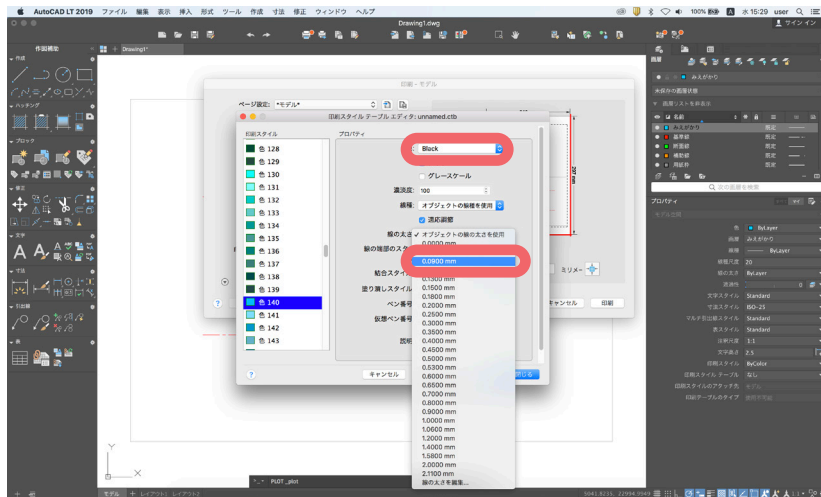


印刷画面が表示されるので、印刷スタイルから、「kude.ctb」を選択します。



印刷スタイルテーブルエディタが表示されます。

まず、画層で設定した「色」から、編集したい色番号を選択します。



色を「Black」に変更します。

※ここで設定するプロパティの「色」は出力時の線の色となります。全て「black」に設定しましょう。

※線の太さは任意に編集します。

kude.ctd で設定されている線の太さ：

基準線→0.05

太線→0.15

中線→0.09

細線→0.05

破線→0.09

実際に出力した図面を見ながら、線の太さを調整しましょう。

